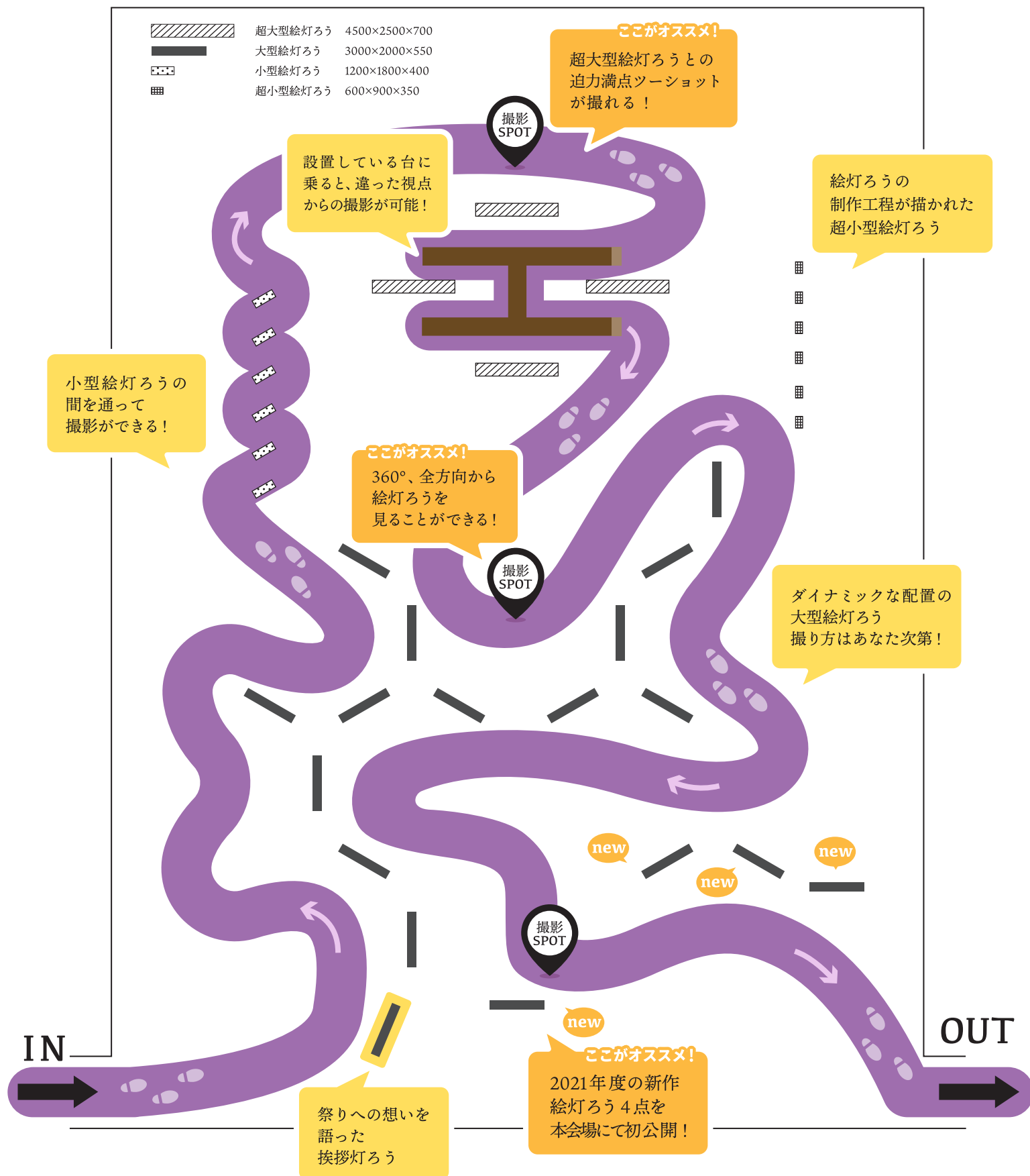
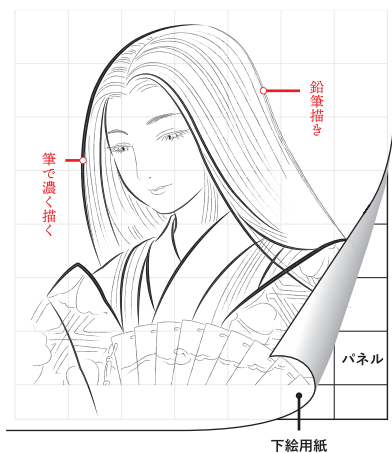


ルートマップ



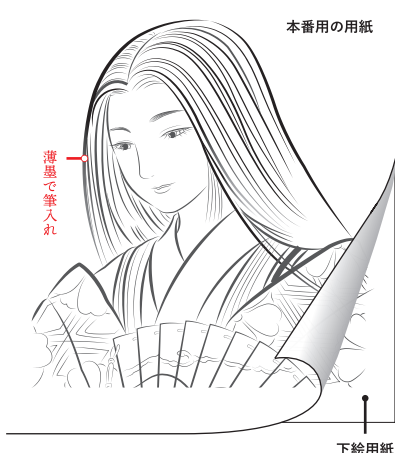


「絵灯ろう」ができるまで



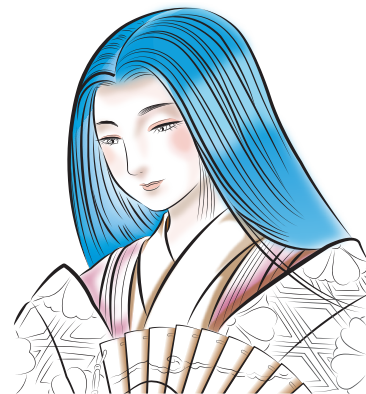
1] 下絵

マス目の引かれたパネルに下絵用紙を貼り準備します。A4サイズ程度に描いた元絵に基準となるマス目を引き、それを参照しながら鉛筆等で拡大して描きます。次の墨入れ工程に使う本番用の紙に透けて見えるように、筆やマーカー等を使って濃い線をしっかり描きます。



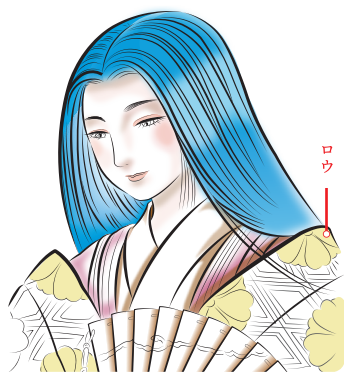
2] 墨入れ

下絵に本番用の和紙を重ねて透かし、筆で墨を入れます。墨は、原液ではなく薄めて使います。顔や髪などの部分はさらに薄い色で描きます。生き生きとした綺麗な線を描くために、度胸と集中力が必要な作業です。



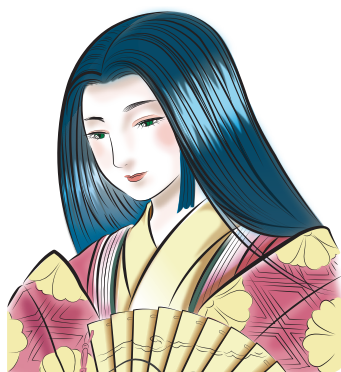
3] 隈入れ・色付け

通常の絵の描き方とは違って、絵灯ろうは陰影を入れる「隈入れ」が先になります。同系色を重ねると鮮やかさが増し、異系色を重ねるとくすんだ色となります。何度も塗り重ねていくため、最終的に出したい色にするのは簡単ではありません。あらかじめ部分ごとに水を塗り、むらにならないように色を入れていきます。



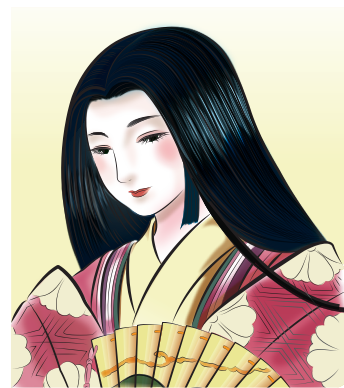
4] 蠟付け

着物や装飾品の模様等で浮き上がるような効果を期待して「蠟(ろう)付け」を行います。蠟を塗ると、水をはじくのでその上には色が入りません。また、紙に蠟が染み込むことで透明度が増し、灯ろうに光を入れた際に光が通りやすく、光っているように見せることができます。先に色を入れてから蠟を入れると、その色味で光らせることができます。



5] 色付け

絵灯ろうの色付けは、薄い色から徐々に色を重ねて濃くしていくという一方通行が基本です。塗るというよりは、徐々に染めていく感覚が近いです。顔の重要なパーツ（目、唇）は時間をかけて化粧を施します。また、髪も質感を出すために何度も重ね塗りをを行います。



6] 仕上げ

細部に至るまで色を入れたあと、後ろから光を当てて色味を確認します。光を入れると思ったよりも薄くなるので、さらに全体に色を付けるなど調整して、仕上げます。